



植柳の風

八代市立植柳小学校 校長室便り
平成30年1月9日 NO. 78

マルトリートメント



「現在、不登校児童生徒数は全国で134,398人にのぼっています。これは、熊本県の今年の児童生徒数にほぼ匹敵します。生徒指導は、現在及び将来における自己実現を図っていくのが生徒指導なのですが、不登校は、決して問題行動ではありません。病気やなんらかの人間関係のトラブルがきっかけになることが多く、初期対応が鍵です。」

「八代市教育委員会から送られてきた資料『学力向上八代プラン』の中にあつた『行きたい学校、帰りたい家、住みたい街』のキーワードが気になりました。みなさん、『行きたい学校』とは何でしょうか。私は、不安がなく、思いやりがあり、人間関係ができる学校（人間関係形成）、集団行動等でやりがいを実感できる学校（社会参画）、学習を通して自己の成長を確認できる学校（自己実現）だと思います。」

1月4日（木）、恒例の年頭研修会が八代市公民館（旧パトリア千丁）で開催された。講演の講師 特定非営利活動法人「まちと学校のみらい」参与 猿渡正利氏は、「子どもの健全な成長をめざして～教育に科学を～」と題して講演され、上記のような生徒指導に関する想いを語られた。ちなみに猿渡氏は、元中学校長で、不登校やいじめ、暴力など子どもの心の問題を科学的に解明する研究、解決策を提案するプロジェクトに取り組んでおられる方である。（中学校学習指導要領特別活動部会編集委員）



その講演の中で、猿渡氏は標題の「マルトリートメント」という言葉を紹介された。初めて聞く言葉であったが、「不適切な養育」という意味がある。昨年10月にTV「世界で一番受けたい授業」でも紹介されたそうであるが、この分野の第一人者 友田明美教授（福井大学子どものこころの発達研究センター）の研究によると、日々子どもと接する中で、大人の何気ない行為や言葉が、実は子どもの心を傷つけ、成長過程の脳が変形する可能性があることが指摘されている。

早速、週末に友田氏の「子どもの脳を傷つける親たち」（NHK出版）を読んでみた。子育てに関することとしては、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待などの虐待のことが話題になるが、あまり目立たないような類の虐待もあるようだ。子どもの目の前で激しい夫婦喧嘩を頻繁にすると、視覚野の一部舌状回という部分が6%縮小し、語彙力や理解力が低下する恐れがあるようだ。また、親があればこれもと手を出し、口を出していると、「信用されていない」と子どもが感じてしまい、扁桃体という危険や恐怖心を感じる部分が変形し、いつもビクビクするようになってしまうそうである。まだある。いつも、兄弟や他の同級生らと比較ばかりしていると、その子どものプライドを傷つけ、喜びや快楽を感じる線条体という部分が変形してしまい、後々アルコール依存症や薬物中毒などに陥る危険性が高まると報告されている。また最近では、スマホ・ネグレクトといって、親がスマホに夢中で、子どもを無視する傾向などにも注意喚起を促している。

しかし、実は一番、心に与えるダメージが大きいのが「感情に任せた暴言」である。体への暴力より、言葉の暴力の方がダメージが大きいことが解明されており、ときに聴覚をつかさどる聴覚野がダメージを受け、耳が聞こえなくなることもあるようだ。

昨日は、成人式が日本各地で開催されたことが報道されていたが、今、子ども時代を過ごしている人もいつかは大人になるときがある。子どもは、大人のミニチュア版ではない。新たな時代を創っていくクリエイターをいかに健全に、そしてたくましく育成していくかが私たちに課せられている。大人が、今何ができるのか、一緒に模索し続けていきたい。

